

我孫子まち歩きマップ

JR天王台駅北口

発行：我孫子インフォメーションセンター（アビシルベ）2020現在



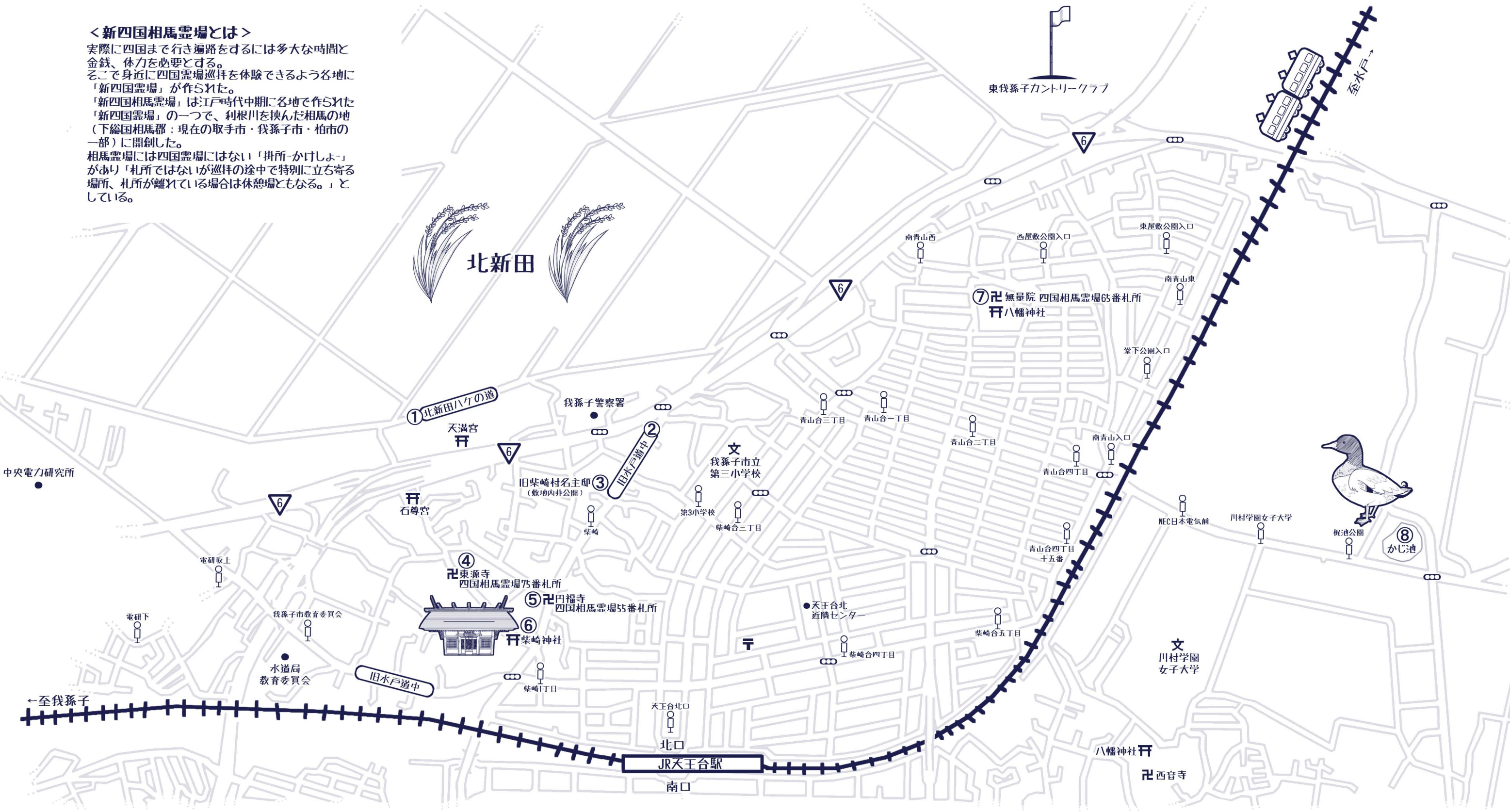
- ～タクシーのご案内～
- 今井タクシー有限会社 04-7182-1341
 - 株式会社ニュー東豊 04-7183-3322
 - 京成タクシー東葛 0120-84-0103
 - 豊島交通株式会社 04-7183-5001

※この地図には…

- 坂東バス
- あびバス（栄・泉・並木ルート）

のバス停が記載されています。

<新四国相馬霊場とは>
 実際に四国まで行き遍路をするには多大な時間と金銭、体力を必要とする。そこで身近に四国霊場巡拝を体験できるよう各地に「新四国霊場」が作られた。「新四国相馬霊場」は江戸時代中期に各地で作された「新四国霊場」の一つで、利根川を挟んだ相馬の地（下総国相馬郡：現在の取手市・我孫子市・柏市の一部）に開創した。相馬霊場には四国霊場にはない「掛所-かけしよ-」があり「札所ではないが巡拝の途中で特別に立ち寄る場所、札所が離れている場合は休憩場ともなる。」としている。



①北新田ハケの道

道沿いの畑は昔の「流作場（りゅうさくば）」の名残で「洪水にならなければ儲けもの」とも言われた耕作地。 ”ハケの道” から樹林におおわれた坂道を登ると、旧家の高垣根が続き風情がある。令和元年（2019年）10月の台風19号において北新田地区は調整池として機能し、利根川の水が市街へと流れ込むのを防いだ。

②旧水戸道中

江戸時代になると幕府は、交通が各地方への幕府支配力を高める重要なものと考え、今から約400年前の江戸時代初めから、江戸を中心とした陸上・水上交通網の整備に力を入れた。日本橋を起点として江戸と水戸とを結ぶ水戸道中は、水戸徳川家や常陸周辺の大名が江戸との往来に利用し、東海道などの「五街道」に次いで重要な「脇往還（わきおうかん）」として発達。天和から貞享年間（1681～1687年）になると、取手宿の整備に伴って我孫子から柴崎をとおって青山方面へ向かう道へと整備され、現在残る水戸道中のルートができた。

③旧柴崎村名主邸（敷地内非公開）

川村磯右衛門は幕末の旗本家給人にもなった人で、柴崎村で唯一の苗字帯刀名主であった。名主の農閑余業として酒造を行っていた。

④東源寺

宗派：曹洞宗
本尊：薬師如来
本堂正面左側に生える榿（まがや）の木は、高さ24m・周囲4.5m・樹齢250年で、昭和10年（1935年）に千葉県指定文化財（天然記念物）に指定された。また、榿は楠とともに我孫子市保存樹木とされ、古くは丸木舟や仏像の材料として使われていた。東源寺の榿は志賀直哉の小説「十一月三日午後の事」に登場している。新四国相馬霊場75番札所。

⑤円福寺

宗派：真言宗豊山派
本尊：阿弥陀如来
柴崎神社の別当寺として創建。中峠の龍泉寺の末寺でもある。真言宗豊山派羽黒山円福寺が正式名称。街道に面したこじんまりとした庭木の美しい寺。鮮やかな彩色の鯖太子像がある。梅檀（センダン）の大樹も美しい。新四国相馬霊場55番札所。

⑥柴崎神社

祭神：天御中主命（あめのみなかぬしのみこと）
相殿：素佐之男命（すさのおのみこと）・蒼稻魂命（うかのみたまのみこと）
他4神を合社。
草創は明らかではないが、古事記の時代に日本武尊が東国討伐の途中立ち寄り、武運と征途の安全を祈願したと伝わっている。平将門も祈願所の一つとしており、神社の神紋九曜紋（くようもん）は将門の紋所と同じである。相馬家一族の守護神としても信仰され、相馬氏の所領が陸奥にあった江戸時代にも参勤交代時は必ず下馬参拝したと言われる。古くは妙見北星神社と言われたが、明治13年（1880年）に柴崎神社と改称された。境内に日露戦争記念の黒髪塚がある。社務所にて御朱印を頂くことができる。北星神社（我孫子まち歩きマップJR我孫子駅西②）の御朱印もこちらで頂ける。

⑦無量院

宗派：真言宗豊山派
本尊：不動明王。創建当初は十一面観音だったようで「青山の十一面さん」と呼ばれ崇められていたという。八幡神社とともに市の「景観奨励賞」を2000年に受賞している。見晴らしの良い高台にあり、眼下に青山宿場、利根川、取手市を望む。境内には銀杏と市内では数少ないタブの大木がある。新四国相馬霊場65番札所。65番の本寺、四国三角寺の本尊は十一面観音である。

⑧かじ池

利根川から派生した遊水池。名前の由来は、その昔落武者が鍛冶屋をしていたことからと言われる。池は直径70mで、多くの木々に囲まれ、カワセミやサギ、冬にはカモ等、多くの鳥も観察することができる。

MEMO

